防草ブロック普及へ

業界2団体　合併で会長に舟田氏

全国防草ブロック工業会（iWBA、会長・舟田昭文鹿内セメント工業所社長）と全国防草カッター工業会（iWCA、会長・後藤茂子後藤商店社長）の合併総会が3月、仙台市内のホテルで開かれ、新たに「全国防草ブロック工業会」が設立された。新iWBAの会長に舟田氏、副会長には後藤氏が就任した。国土維持業務に取り組む新たな組織として、防草技術を活かしたコンクリート二次製品販売と、遮路防草カッター工法による施工の多面的な普及活動を展開していく。

両団体は、昨年6月の総会で合併を承認。以降役員会などで協議を経て、この度、合併総会を開催した。初年度の目標は、製品販売上高4億円、製品整備延長100㎞を掲げた。イベント展示会に掲出する販促物を制作するほか、雑草の成長抑制を可視化するための「試験管検証」に取り組む。

舟田氏はあいさつで、「コンクリート二次製品を取り巻く厳しい事業環境に触れ「原材料の高騰やSDGs課題への対応など諸課題への対応を含め、業界の底上げや値戻し、販売の見直しにも寄与できるよう、会員の皆様の協力で地位を向上させていきたい」と決意を新たにした。

本会員は85社でスタート。今後40社を目指す。新団体は部会制を採用し、iWBAを前身とする「PCa部会」と、iWCAが前身の「施工部会」で構成し、広報委員会と営業開発技術委員会を設置。事務局は、坂本セメント工業所本社が担う。引き続き、jWBA顧問で全都宮大学雑草管理教育研究センターの西尾孝佳教授らが顧問を務める。

後藤氏は「この会に入って利益がしっかり取れるよう新たな「歩行者用道路」を踏み出していければ」と述べた。総会後、「設技術公開EE東北」（6月26日、仙台市）で開催された「九都県市きらりと光る産業技術」を受賞した。

iWCAは、道路や歩道の目地部での雑草の発生抑制を目的にした「防草カッター工法」の普及と技術向上を推進する組織。道路の目地、ブロック間に生えるように、専用カッターで切れ込みを入れ、「V字型や特殊な断面」に切れ込みを生えない